発信日：R7.8.27

新ひだか町立病院コラム Vol. 56

【退院後も安心の生活を】
～多職種で支える家屋評価とリハビリ～

退院の日はゴールではなく、新しい毎日のスタートです。私たちのリハビリは病院で終わりません。ご自宅等で安心して過ごせるよう、その先の暮らしまで寄り添います。

その要のひとつが「家屋評価」です。

病院職員がご自宅を訪問し、これまでの暮らし方を丁寧にうかがい、間取りや段差、手すりの有無などを確認し、必要に応じて福祉用具や介護サービスの活用も一緒に考えます。家屋評価の情報は、担当のケアマネジャーやご家族とも共有し、住み慣れた家でその人らしく過ごせる環境づくりをご提案します。

玄関の段差にスロープをつける、浴室に手すりを一本足す、ベッドの位置を少し動かす。そんな小さな工夫が転倒への不安を和らげ、「できた」という喜びに変わり、外出のしやすさや夜間の安全につながります。「ちょっと楽になった」の積み重ねが、暮らしの自信になります。

町立病院は、入院から退院後までを一つの道のりとして、多職種で連携しながら“安心が続く毎日”をお手伝いします。

「いつもと違うかも」と感じたら、遠慮なく当院を受診ください。

✧ *福祉用具は１割負担で購入できる場合があります。*

院長のつぶやき

院長の小松です。

少子高齢社会の進展に伴い、介護や医療の現場では「自宅で安全かつ快適に生活できる環境づくり」がますます重要になっています。その中心となるのが家屋評価とリハビリテーションです。

家屋評価とは、生活環境がその人の能力や障害特性に適しているか、安全性や利便性が確保されているかを多角的に分析するものです。単なるバリアフリー化にとどまらず、本人の生活目標や社会参加、家族の意向まで総合的に考慮する必要があります。

特に重要なのは、①「できる活動」を広げ「したい活動」を支えること、②家族や介助者への指導、③環境調整と動作訓練の連携、④継続的な評価と見守りです。これらは医師・看護師・リハビリ専門職・ケアマネジャー・福祉用具専門相談員・建築士・ソーシャルワーカーなど、多職種が協力して取り組むことが欠かせません。さらに ICT や IoT の進歩により、リモート家屋評価や遠隔リハビリ支援も可能になりつつあります。制度や人材育成、地域資源の活用を組み合わせ、地域包括ケアの推進が期待されます。

家屋評価とリハビリは、利用者の尊厳や QOL（生活の質）向上に直結する取り組みです。多職種が力を合わせ、より安心できる在宅生活支援を実現し、誰もがその人らしく暮らせる社会を目指してまいります。

町立静内病院　0146-42-0181（代表）
三石国保病院　0146-33-2231（代表）